

混迷を深めるトルコ経済・金融情勢

ポイント① 揺らぐ経済政策への信頼

トルコ・リラは8月6日に一時1米ドル=5.3トルコ・リラ台と史上最安値を更新しました。円に対しては、昨年9月の1トルコ・リラ=32円前後から6日には一時20円台まで下落しました。トルコ・リラの急落は、エルドアン大統領のもとでトルコの経済政策に対する金融市場の信頼が揺らいでいることを示唆しています。

6月24日の大統領選および総選挙のダブル選挙で勝利して強権を握ったエルドアン大統領は、7月上旬に経済政策の要である財務相に、娘婿のアルパイラクエネルギー天然資源相を横滑り就任させました。市場では大統領の身内を重用する閣僚人事が不安視されました。また7月24日のトルコ中央銀行の金融政策決定会合で事前利上げ予想に反して政策金利の変更が見送られたことは、利下げを求める大統領の意向を中央銀行が無視できなかったとして、中央銀行の独立性が損なわれたとの見方が強まりました。

ポイント② 対米関係悪化の懸念

さらに、対米関係悪化の懸念も生じています。8月1日、米財務省は、2016年のトルコ・クーデター未遂事件に関わったとされる米国人牧師の拘束に対する制裁措置として、トルコ法相・内相の資産凍結を発表しました。3日には、米通商代表部（USTR）がトルコに対する関税優遇措置の見直しの検討を発表しました。4日にはトルコ側も米2閣僚を制裁対象とする対抗措置を示しました。

ポイント③ 通貨安とインフレの悪循環を止められるか

トルコ・リラの急落と共に、インフレ率は大きく上昇しています。7月の消費者物価指数は前年同月比15%台後半、生産者物価指数は同25%の大幅な上昇となりました。インフレ率の高騰が続けば、トルコ・リラの価値がさらに損なわれ、通貨下落とインフレ率高騰という負のスパイラルが生じかねません。また、トルコ・リラが下落すると、米ドルなど外貨建ての債務を抱える金融機関や企業の債務返済負担も増します。

財政再建や構造改革などによって経常収支の改善を図り、通貨下落とインフレ率高騰の悪循環を断ち切ることが、エルドアン政権にとって大きな課題となっています。

重要
イベント

8月10日 トルコ経常収支（6月）
8月15日 トルコ中央政府財政収支（7月）
8月17日 トルコ今後12ヵ月期待インフレ率（8月）

図1：トルコの長短金利、政策金利

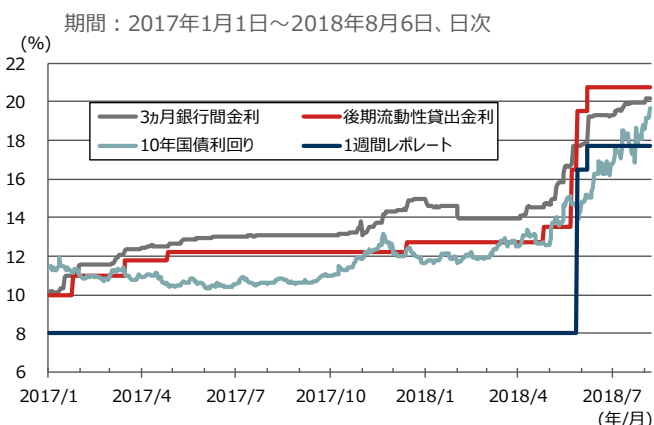
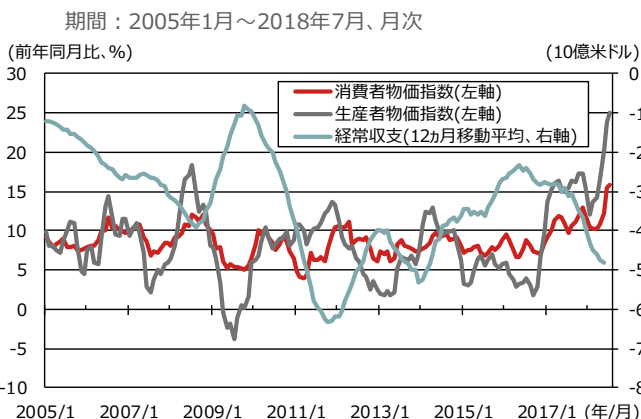


図2：トルコ・リラとトルコ株式指数



図3：トルコのインフレ率と経常収支



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認ください。